

ランク変更種 解説資料

ヒトツバハギ

種子植物・キントラノオ目  
コミカンソウ科

*Flueggea suffruticosa* (Pall.) Baill.

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2022)	野生絶滅
環境省(2020)	指定なし

評価理由	野生状態のものはずでに絶滅したと考えられてきた。しかし、過去に標本が採集された地点の周辺を精査した結果、小規模な集団が2地点で確認されたが、個体数は極めて少ない。
------	---

適用基準	定量簡易ACD
------	---------

主な危険要因	管理放棄、土地造成(圃場整備) 現存する集団はいずれも二次林の林縁にあり、アズマネザサの繁茂によってさらに衰退する可能性がある。また、農地に接するため、圃場整備に伴い消失するおそれもある。
--------	---

総産地数	6
現存	2
不明	0
絶滅	4

特記事項	県内では、従来東部地域及び中部地域で知られていたが、2010年に工事に伴う環境変化により絶滅し、県内施設に移植されたものだけが残存していた。これらとは別に、利根沼田地域産の標本が見いだされ、今回の記録はその周辺地域である。本種は雌雄異株のため、種子繁殖のためには雄株、雌株両方が必要である。
------	---

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	×
西部	
東部	×

カワラボウフウ

種子植物・セリ目  
セリ科

*Kitagawia terebinthacea* (Fisch. ex Trevir.) Pimenov

今回評価	絶滅危惧IA類
群馬県(2022)	情報不足
環境省(2020)	指定なし

評価理由	県内では1980年代以降標本を伴う記録はなかったが、吾妻地域で2020年に採集された標本を再検討した結果、本種と同定された。なお、採集地周辺での残存株数はわずかである。
------	--

適用基準	定量簡易ACD
------	---------

主な危険要因	草地開発、管理放棄、道路工事 日当たりの良い場所を好むため、低茎の草地の管理放棄により減少した。また、スキー場や牧場の草地への外来種の侵入や道路工事も減少要因になったと考えられる。
--------	---

総産地数	4
現存	1
不明	0
絶滅	3

特記事項	本種のような大型のセリ科は関心をもちにくく、県内の分布が十分把握されているとは言いがたい。今回確認された集団は10株未満であり、近年隣接県で記録された集団も同規模である。それゆえ、県内に他の集団が残存していても、個体数はわずかと考えられる。
------	--

県内の分布状況	
利根	△
吾妻	○
中部	
西部	△
東部	